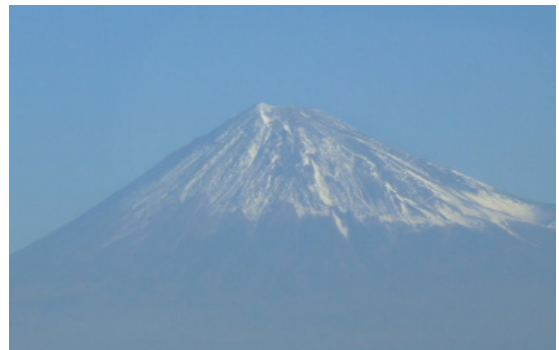


## 「節目」の2008年を迎えて

写真は2008年元旦の日の出を自宅ベランダから撮ったものだ。それほど寒くなく、東の空に鮮やかな初日の出が眺められた。それと新年なので、年末の横浜調査のさいに新幹線から撮った富士山である。快晴の空に聳える富士山をじつに美しく撮ることができた。2007年から2008年へとあわただしく移り変わり、もう13日である。ヘルペス（帯状疱疹）で左耳がやられ、点滴などにより回復してきたが、年末から年明けにかけて、まさに「痛い目」にあった。



ことは「節目」の年である。9月には60の大台に突入して「還暦」を迎えることになる。宮本先生の「還暦記念」出版などで右往左往していたのが思いおこされる。「還暦」などという実感はまったくない。



レポートにも書いたことがあるが、中学生まで生きられるかと医者に「宣告」されたそうで、よく生きながらえたものだ。ひとつの「節目」にあたり、これからどう生きながらえていくか考えなくてはならないが、相変わらず年明けから仕事に追われている始末だ。若い元気な学生たちと接していると、60とか「還暦」といった気分には浸ってられない。恒例の卒論報告会から卒業式、そして入試、入学式へといつものように時が流れていく。

ことが人生の「節目」であることを前向きに考えて、仕事・研究の目標を示すことにしたい。2003年に『公共事業と財政』を出版して早いもので5年が経つ。この間、法人化を前に学部長という激職を務めたりしたが、恥ずかしながら研究面でまとまった仕事できていない。公共事業や地域経済、地方財政など状況がかなり変化しており、この間の合併やまちづくり研究などの成果を加えて、ぜひ「続編」・単著をまとめたい。「公約違反」「偽証」にならないよう、奮闘努力の甲斐があるようにしていきたい。

(2008年1月13日 記)